勝福寺大日堂（小田原市）

しょうふくじ　だいにちどう

ここが飯泉山勝福寺/正面は仁王門/江戸時代（1758年）の建立/小田原市指定文化財

小田原市指定重要文化財（昭和六三年一一月一日指定）

勝福寺の仁王門

（所在地）小田原市飯泉一一六一

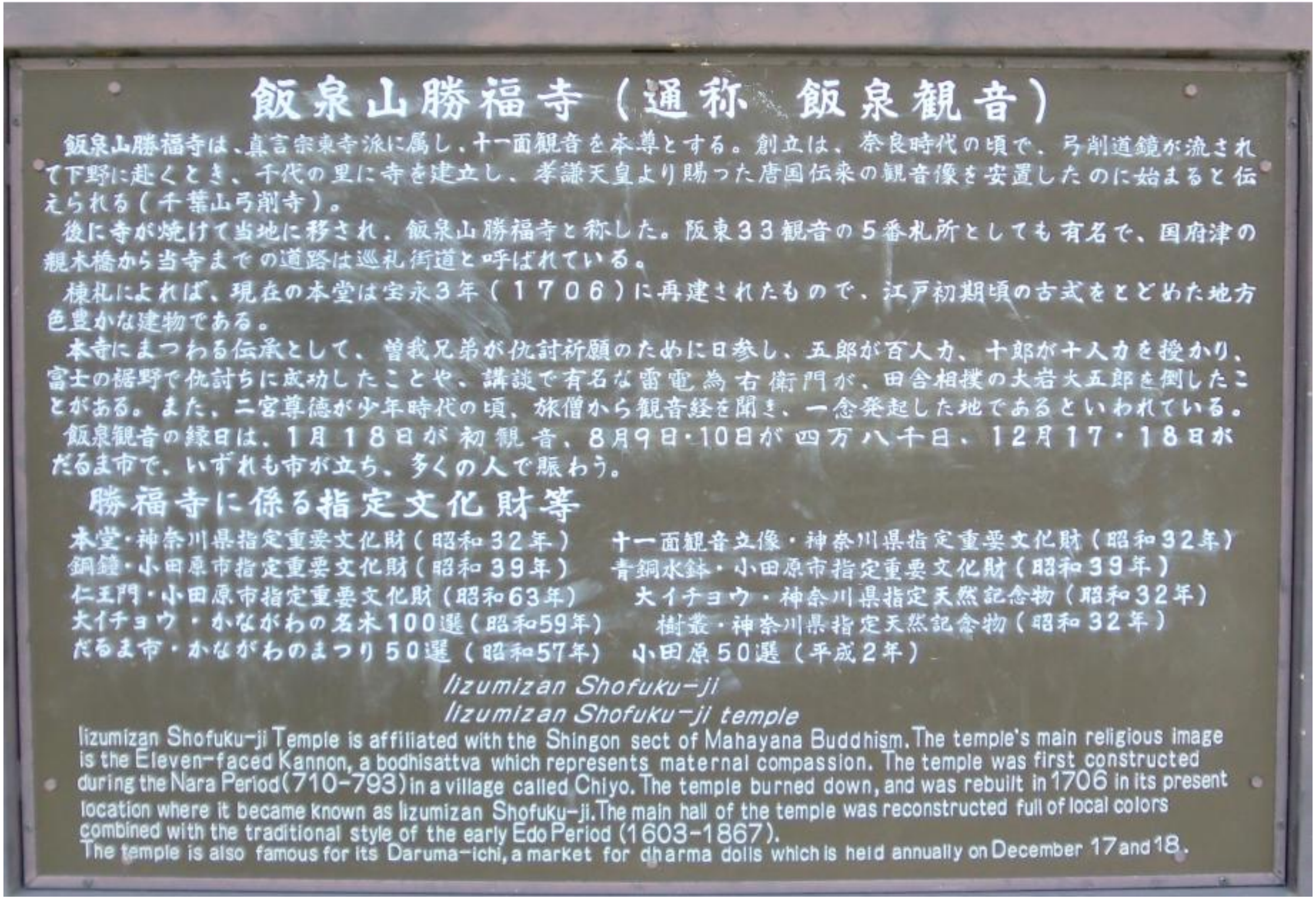
飯泉山勝福寺は、真言宗東寺派に属し、通称飯泉観音と呼ばれ、坂東三十三観音の第五番札所として有名です。本堂や本尊の十一面観音は、県の重要文化財に指定されるなど、由緒ある寺院です。

仁王門は、『飯泉誌』によると宝暦八年（一七五八）に造営されたもので、全体に木割が太く、二重虹梁蟇股式の妻架構が堂々とした外観を構成しています。また、八脚門としては県下でも最大級で、格調の高い門です。

この仁王門も老朽化のため、昭和三四年から三八年までにかけ解体修理され、屋根も、茅葺から銅板葺に改変されましたが、それ以外は貫などに新材で補修した箇所があるものの、原形をよく留めています。

小田原市教育委員会

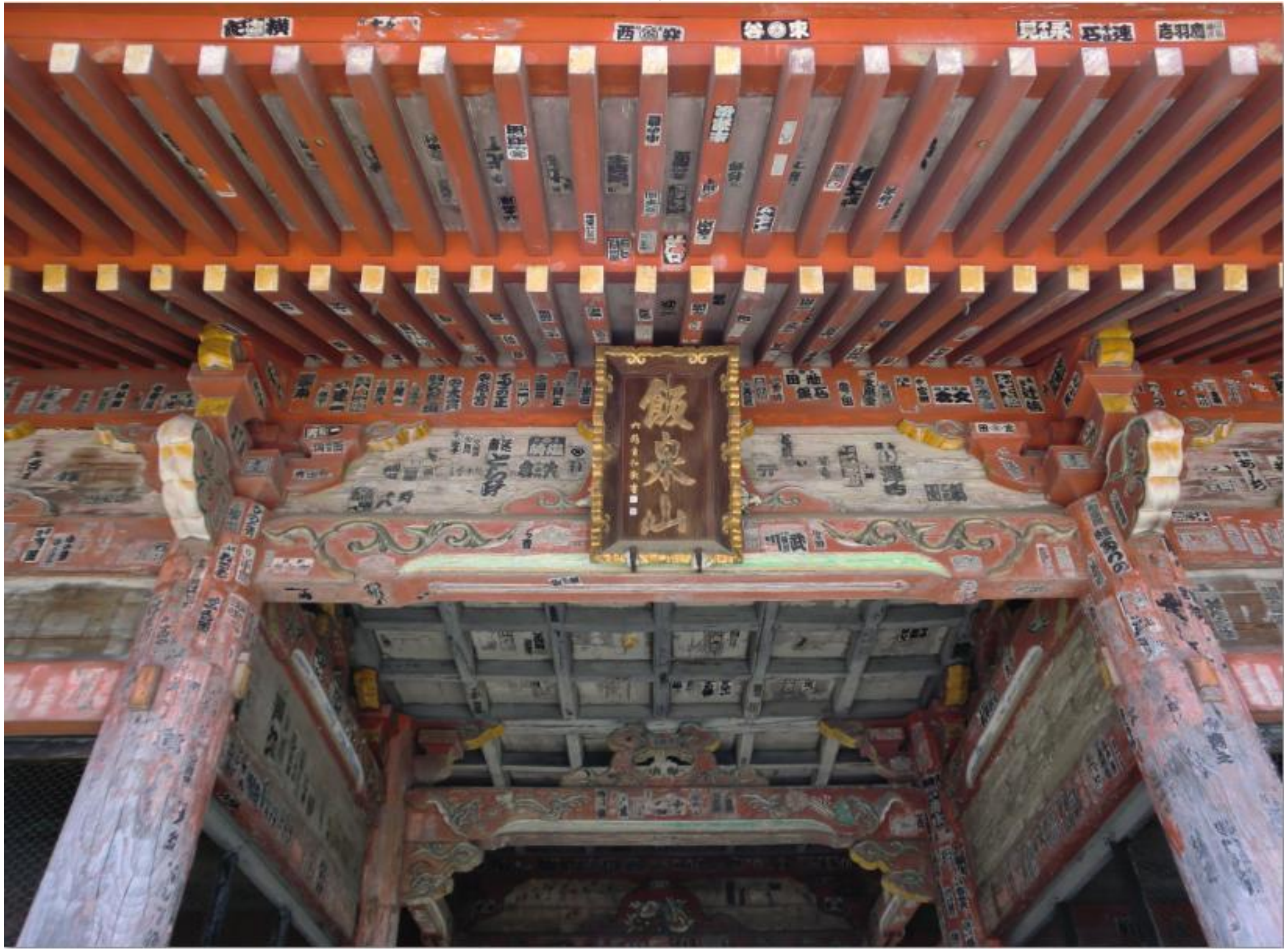
さまざまな文化財があるようだ

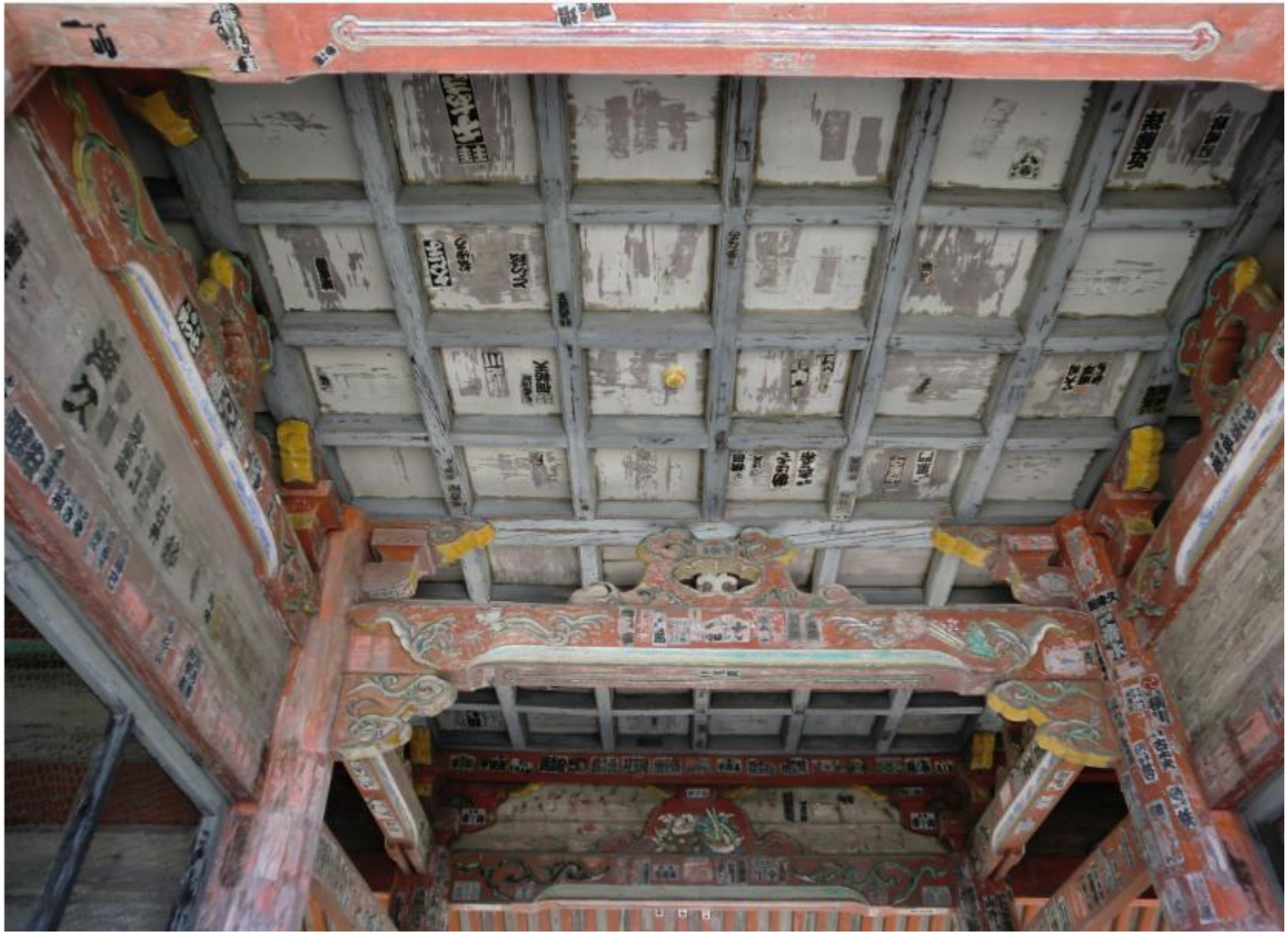


境内全域
貼札禁止
当山

厄除祈願
当山
境内全域
貼札禁止
当山

坂東三十三観音の5番札所にもなっている





「堂々とした外観を構成する二重虹梁蟇股式の妻架構」が見てとれる

正面前方が本堂（金堂あるいは観音堂とも）

仁王門を境内側から見たところ

これは「青銅水鉢」/江戸時代（1704年）の製作/小田原市指定文化財

小田原市指定重要文化財
勝福寺の青銅水鉢
昭和三十九年五月二十七日指定
この水鉢は、青銅製で竜頭船の形をしています。
船尾に十一面観音菩薩の坐像が一躯あり、水鉢の全体に多数の銘文が刻まれています。
銘文によれば、作者は江戸神田の鋳物師小沼播磨守藤原正永とあり江戸時代の宝永元年（一七〇四）七月と記してあります。
この水鉢は、水鉢として形などが珍しく、その造りも優れています。
全長　二七〇センチ
幅　五十五センチ
高さ　八十二センチ
小田原市教育委員会

これは「銅鐘」/江戸時代(1629年)の製作/小田原市指定文化財

小田原市指定重要文化財
勝福寺の銅鐘
昭和三十九年五月二十七日指定
この銅鐘は、青銅製の和鐘で銘文により、江戸時代初期の寛永六年（一六二九）に地元小田原の鋳物師である青木源右衛門が作ったことがわかります。
また、この銅鐘の奉納者は、江戸の侍である佐須弥左衛門尉政重と記されています。
小田原の鋳物業は、戦国時代に北条氏から庇護を受け、関東鋳物業の中心でありました。
江戸時代になってからも鋳物は栄え、山田、長谷川、青木の諸家から名工が生まれ小田原の梵鐘として広く知られてきました。
この銅鐘もその一つであり、市内に残る数少ない銅鐘の内でも、優れたものであります。
総高　一三九センチ　鐘身高　一〇〇センチ
口径　七十四センチ　竜頭高　二十八センチ
小田原市教育委員会

これが本堂/江戸時代(1706年)の再建/神奈川県指定文化財/このエリアが観音霊場らしい

昭和41年～43年に半解体修理が行われたが、大岡實建築研究所はその修理工事の設計に関わっているようだ

修理工事の施工は安田工務店らしい？

右斜め前方から見たところ/修理前の屋根は茅葺だったが、柿葺型銅板屋根に変更されたという

背後から見たところ

これは「力士雷電仇討相撲土俵跡」/その向こうに見えるのは馬頭観音堂(大岡實建築研究所は勝福寺馬頭観音堂の設計に関わっていたようだが、この建物はそれとは違い、他者の手によるものらしい)

「力士雷電仇討相撲土俵跡」の石碑

さて、これが大日堂/右手にも向拝があり、そちらは北向大師となっている

この大日堂は仮本堂としての位置づけだったようだが、その後に大日堂とされたようだ/これも施工は安田工務店か？

大日如来

大日如来

大日如来

左手が大日堂の向拝、右手は北向大師の向拝

北向大師正面/右手は縋破風として一部屋出している

北向大師

向大師

向大師

これが縋破風のところ

縋破風の納まり

これが縋破風として一部屋出している部分の立面

こんな具合になっている

北向大師の反対側立面/右手は大日堂の向拝

縋破風の部分

右手は大日堂の向拝

疎垂木で各部材は面がとってある

垂木もこんな具合に面がとってある

猪目懸魚

宝珠、露盤

さて、これは大日堂の隣にある八幡神社

八幡神社
鎮座地　小田原市飯泉一一六四
主祭神　誉田別命
例祭日　十月第一日曜日
境内末社　稲荷社・天神社・神明社
古来、茲飯泉は、鎌倉街道・大山街
道・足柄山道・箱根山道等々が交錯
し、殊に鞠川（現在の酒匂川）の渡
し場、隣接の坂東観音五番札所の宿
場と共に交通の要衝であったが、同
時に、洪水・地震・噴火に悩まされ
た住民は相謀り、永年の願望だった
茲飯泉村に鎮守神を奉斎すべく、時
の宗我播磨介広之（宗我都比古神社
々主）に請願し、鎌倉八幡宮のご分
霊を奉遷したのである。
其の後逐次近郊の末社を整理集合し
て、郷社として天下泰平・五穀豊穣
・安産・永世平和の守護神として崇
尊され祀られてきた。

お伊勢さま
天照皇大神宮と

天照皇大神宮と氏神さまの
神札をおまつりしましょう

こちらは山門と築地塀で区画された本坊エリアで、左手に見えるのが新しい本堂

四脚門の山門となっている

これが新しい勝福寺本堂

獅子窟

さて、これが「大イチョウ」

神奈川県
かながわの名木100選
勝福寺の大イチョウ
雄株で樹形の整った堂々たる巨木である。かつて乳イチョウと呼んで乳の出ない婦人が願をかけたと言われている。
県の天然記念物に指定されている。
樹高 30メートル 胸高周囲 7.5メートル
樹齢 約700年（推定）

こんな感じ

神奈川県指定天然記念物で、かながわの名木100選となっている

神奈川県指定天然記念物
勝福寺と
八幡神社境内の樹叢
昭和四十七年七月二十一日指定
小田原市中央部の低地を流れる酒匂川
の左岸約二〇〇メートルのところに飯泉
山勝福寺があり、飯泉地区の鎮守である
八幡神社がある。寺院と神社との間には
境界はなく同一境内にあるような現況で、
神仏習合時代の面影を今に残している。
境内には、ケヤキ、ムクノキ、イチョ
ウ、エノキなどの落葉高木を主に、クス
ノキ、カヤ、イヌマキなどの常緑の高木
が生育し、お寺の森とお宮の森が一体と
なってみごとな樹叢ができている。
「勝福寺の大イチョウ」(昭和三十二年
天然記念物指定)を含むこの樹叢を保護
するため、天然記念物として指定した。
神奈川県教育委員会

さて、こちらは道祖神/小田原市指定文化財

小田原(飯泉)の道祖神

参考ホームページ

http://history.ukinedori.com/2007/11/%E5%8B%9D%E7%A6%8F%E5%AF%BA.html

http://members3.jcom.home.ne.jp/arecore/bandou33-5-shoufukuji.html

http://cinnabar.sblo.jp/article/169519023.html

http://blogs.yahoo.co.jp/imoimochan1911co/23067645.html

http://www.rekitabi.sakura.ne.jp/junrei_bandou/05syouhukuzi/syouhukuzi.html

http://whitemary.web.fc2.com/bando/5syouhuku.html

http://www.geocities.jp/junreitobotobo/bandou/bandou3305.html

http://ameblo.jp/tsato1966/entry-11901817964.html

http://blog.goo.ne.jp/odawarahashibashi/e/2f73c0f3dc54122e580655a637abad23

岩原
小田原市立報徳小
富水
曽我梅林
小田原市立千代中
716
74
相模沼田
717
小田原厚木道路
小田原厚木道路
小田原PA下り
飯田岡
螢田
東海道新幹線
718
国府津病院
穴部
勝福寺
国府津
東海道本線
五百羅漢
神奈川県立西湘高
小田原市立久野小
足柄
719
西湘バイパス
井細田
酒匂川
小田原市役所 総合案内
1
720
小田原市
酒匂
神奈川県立小田原
総合ビジネス高
関東学院大
74
地図データ ©2015 Google,